

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3371100383		
法人名	有限会社 ともゆきの家		
事業所名	グループホーム ともゆきの家		
所在地	岡山県備前市麻宇那763-1		
自己評価作成日	平成31年 3月 10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3371100383-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成31年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年も邑久町虫明にある等覚寺で一年の健康を祈願し、初詣が始まりました。私たちは昔ながらの節分祭やお雛祭り、お花見会、七夕まつり、芋ほり、忘年会など季節の行事をたくさん取り入れ、少しでも利用者様が過ぎ去りし者の思い出を取り戻すことができるよう工夫をしている。

利用者様の意向に添い、外出などの支援に取り組んだり、季節感を取り入れた環境作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

備前市では先駆的存在の「ともゆきの家」はもう少しで20周年を迎えると聞いた。その間、関連事業も増やし、この地域では信頼出来る事業所として大きな貢献をしている。しかし、ホームの、地域や利用者への想いは揺らぐ事なく理念を当初から貫いている。施設長に最初に出会った時の「食へのこだわり」は、今日の昼食も変わらない。「ここに馴染んでくれて、我が家のようになって欲しいな」とか「他所では見てもらえない、どのような方もこの家族に」等の言葉は、今も続いている。前回の訪問時は重度の利用者が多く、職員の対応も大変であったが、今回はリビングの壁に大きく掲示された数枚のイベントや旅行の楽しそうな写真から一目瞭然。自立の方が多く、出来る家事は各自が率先してする、グループホーム本来の姿になっていた。これまでに安からにここで家族・職員に看取られた人も、「ありがとう！姉さんが見てくれるから長生き出来るんじゃ」と、職員に声をかける今日の利用者、「いずれの皆さんも、幸せに違いない」と思う。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「おもいやりの心、温かい言葉、親切な行動、明るい笑顔」という理念を掲げ実践に取り組んでいる	グループホームでありながら、「マイホーム」と呼んでいただける、そんな家を目指している。5項目の理念を毎月定期的実施しているミーティングで、具体例を通して話し合っている。日頃の業務の中で気になった事等を反省し職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天候の良い日の散歩や地域の商店への買い物、お祭り等へ参加し、挨拶をしたり会話している。	地域の行事の盆踊り・秋祭り・文化祭等への参加、伊里中学校との交流、日常的には買い物や近くへの散歩等、地域の人達との交流は多い。さらに市民センターでのお茶会への参加や、ホームのイベントに地元の人がボランティアで来てくれるのも嬉しい。	地域の方々との交流には利用者の状況も配慮が必要と思うが、支障のない場合には、例えば近所の人と災害の時の助け合い等を話し合い、付き合いを深めていきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の人に理解していただけよう意見交換がされている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所の現状報告し参加メンバーからの質問、意見、要望を受け、できるものから実践し、サービス向上に生かしている。	市の担当者・包括支援センター・家族等の参加を得て、ホームの状況・利用者の活動の報告等をしている。参加した家族からは「家にいたら出来ない事をここではしてくれている」等の発言がある。	会議を土・日に実施すると行政関係の参加が得られないし、平日となると家族が出席しにくい現状ではあるが、この会議に家族の意見が少しでも加えられるよう、関係者で相談してみてください。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいている。また、サービス提供内容について、機会あるごとに市担当者と協議している。	平日に実施する運営推進会議には市の担当者が参加してホームへ情報を提供・助言をしてくれたり、介護保険関係についても必要な時、具体的な相談・指導をお願いしている。災害に関する件についても相談・連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体ミーティングを通し、身体拘束のないケアを全職員が十分理解し、日々のケアに取り組んでいる。日中は玄関を施錠していない。	行政からの指示もあり、身体拘束禁止に関する取り組みは確実に実施している。自宅に帰りたく強く願っている利用者もいて、職員がその人の気が済むまで一緒に歩くようにし、また、その人が話す事を辛抱強く聞くようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティングでの勉強会を通し、現場で生かされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護に関する制度についてある程度理解しているが、職員は学ぶ機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、書面を読み上げ、質問や疑問点については説明し、理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族の訪問時には、スタッフから状況を説明したり要望などがあればスタッフ全員で話し合い要望にこたえられるように努めている。	家族に請求書を送る時に、個別の写真入りのお便りを送っている。家族が面会に来られた時には出来る限り話すようにして、家族の思いを聞くようにしている。家族は運営に関する意見は少ないが、延命治療等に関する要望等は伝えてくれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションをはかり、意見や要望を聞き反映させるようにしている。	年に2回以上施設長が個人的に職員から要望や意見を聞くチャンスを設け、ホームの運営やより良いケアに反映している。また、日常的には毎朝10時に職員が揃った時、申し送りと共に何か言いたい事や要望があれば話すようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談を行い、スタッフの意識改革ができるように指導、援助に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外への研修の機会を積極的に確保し、参加を促している。また、資格取得にも力を入れ職員のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や市主催の研修会に参加し、他事業所との情報交換やネットワークづくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に生活歴、心身状況、家族状況を聞くなどし、本人に安心感を持っていただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面接を行い、家族の不安や要望を理解できるように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び、家族の要望を確認、把握しその人に合った必要なサービスが提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から入所者の方と一緒にできること(掃除、洗濯物たたみ)は雑談したりお茶を飲みながら一緒に生活している雰囲気づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には居室にてお茶接待しながら現状の報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力もあり本人の行きたいところなどへ出掛けられる支援も行っている。	息子・娘の面会があると必ず家族で妻に会いに特養に行く男性、米を買いに職員と一緒に自宅に帰る人、日々の散歩や買い物で昔の職場の人と会い話をする事もある。必ずしも家族との縁に恵まれている人ばかりではないが、これまでの馴染みの関係を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握し、その人に合った支援を行い席替えなどして孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、医療機関や他の施設へ面会に行ったり、家族からの相談に随時応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人の訴えはしっかり傾聴し、できるだけ意向に沿うように努めている。	介護記録や申し送りノートを見ても、利用者の発言や行動、会話等をよく拾っている。心理面の描写もその人の思いがよく伝わってくる。自分で喋り意思表示の出来る人が多いので、意向や希望も比較的把握しやすい。	フェイスシートに生活歴の記入はあるが、大半が認知症状が出てホームに入るまでの過程が多い。その人をよく知り、理解する為には、生きてきた歴史・背景を知ることが大切であり、「人生歴」として情報を追記し、職員間で共有して欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を聞き、スタッフ間で情報交換するなどし、把握、共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態を介護記録や、バイタルチェック表へ記載しスタッフ全員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの意見を参考に、スタッフの意見も聞きながら介護計画を作成している。	本人の意向に添ってニーズを掘り起こし、残存能力を引き出し維持していく工夫、役割を持ってもらう為の具体的援助内容になっている。アセスメント・モニタリングを定期的にしなが、その人の状態に合わせて現状に即したプラン作りをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有ができるように、個人記録の記入や申し送りノートを活用し、実践や見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域密着型特別養護老人ホームの開設など多様なニーズに対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店に買い物に出かけたり、理容室に通ったり、なじみの関係が築けるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を結び適切な医療が受けられている。また、家族が希望する病院にも対応している。	かかりつけ医はとても協力的で365日24時間いつでも対応してもらえ往診もある。他科受診が必要な時は紹介状を持って職員が同行する事が多い。職員は全員喀痰吸引の資格を持っており、また、職員に看護師も配置しているので、胃ろう造設の人にも対応出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を把握し、申し送りなどから何かあればすぐ看護師に報告、相談し指示をあおぎ健康管理している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へは必要な情報提供を行い、スムーズな治療が行われるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には十分な話し合いを行い、理解をしてもらっている。状態変化があった場合は、今後の方針についてその都度話し合いを行い対応している。	開設以来、これまで15名余り看取りを実施してきた。昨年は2名ホームで看取ったが、老衰で食事が摂れなくなり家族に見送られての最期だった。ホームには看取りの時、家族が宿泊出来る部屋が一室あるが、居室にソファベッドを置いて付き添う家族が多いそうだ。延命治療を希望しない家族が多いと聞いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティング時、勉強会を開き急変や事故発生時の備えに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練を消防署員立会いの下おこなっているが、地域との協力体制は、協力が限られてしまっている。	年2回、夜間想定での避難訓練・通報訓練等をしている。近所の人も協力的であり、地域の消防団に入っている男性が近所にいるので、連携が取りやすい。火災発生時はテラスから避難するようにしており、水害時は高台にある法人の特養に避難する事にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した対応にはこころがけているが、時にはなれ合いになりがちな場面もあると思う。日々声かけには十分注意していくよう努力していきたいと思う。	人生の先輩として敬い、本人の意思を尊重して強要しない事を心がけており、特に声かけ(言葉遣い)には気をつけ、お互いに注意喚起をしている。また、入浴・トイレ介助時の羞恥心にも配慮して同性介助をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な方には、何か行動を起こす際、本人に確認したり、選択していただいている。それ以外の方にも思いをくみ取り声かけしながら働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはきまっているが、本人の心身の状況に合わせて個別支援ができるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着替えができる人は好みの服を自分で選んでもらっている。できない人は職員でコーディネートしてその人らしさが出るように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には野菜の皮むき等手伝いをしてもらっている。また、旬の野菜など見たり触ったりして頂き、食への意欲を引き出せるように心がけている。また、食事は同じ食卓を囲んでゆっくり食事が摂れるように配慮している。	開設当初から、食へのこだわりは一貫しており、米を利用者の家から仕入れたり、旬の野菜を使う等、品数と量も多い。残してもいいから好きなだけ食べてもらおうと職員。昨年からは法人の特養に回転寿司店が来て目の前で握ってくれるので、GHの利用者もとても楽しみにしているとの事。美味しい食事に皆大満足。	食材は外部業者に委託しているが、基本的メニューを少しアレンジしてホーム独自の調理の様になっている。イベントの食事写真で残っており、利用者の食べる楽しみを大切に、これからもホームの伝統を守り続けて下さい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎回個人記録に記入し把握、食事時以外にもこまめな水分摂取の声をかけている。個人個人の状態に合わせた食事形態に配慮し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや見守りを行い口腔ケアを行っている。できない方についてはスタッフが介助し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、排尿、排便のパターンを把握し、声かけや介助をしている。夜中も3～4時間ごとに確認してパット交換を行っている。	布パンツ6名。その他の人は紙パンツ、パット、紙おむつと、状態によりそれぞれ使用。経費削減の為、失禁してもなるべく布パンツで過ごしてもらっている。紙パンツの使用が少なくなった。前の施設では紙パンツだった人も入所したその日から布パンツにした例もある。日中もこまめに声かけ・トイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を把握し、できるだけ水分を摂ってもらったり、朝牛乳、ヨーグルトなどで対応している。入居者別に便秘の状態が違うので服薬によるコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は一応決めてはいるが、本人の希望によりその都度入浴できるようにしている。入浴拒否がある場合には日時を替えたり声かけするスタッフを変える工夫をしている。週3回入れるようにしている。	入所して日の浅い男性は自立度が高く、更衣・入浴も全部自分でするので、職員は外で見守る程度と聞く。毎日欠かさず入浴する人が5名。胃ろう造設で寝たきり1名以外は全員浴槽に入れる。入ったら長くなかなか出てこない人には職員が声かけして安全に気をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせ、昼寝やたたみコーナーで横になるなど自由に休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の説明がスタッフ全員で共有し理解に努めている。入所者の状態変化の観察に努め変化のあった場合は申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや洗濯物たたみなど、日々の生活の中で役割を持って生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブなど外へ出る機会を設けたり、花見など季節ごとの行事への参加ができるよう計画を立てている。また、家族の協力を得て外出や外泊の支援も行っている。	月2～3回は出かけ、その日の利用者の気分や希望でドライブや買い物に行っていると聞いていたが、今日の午後も数人の利用者と職員が買い物に出かけて行った。思いついたら即実行でフットワークが良い。留守番組の男性陣も自分の時間を満喫していた。家族の協力もあり、年1回は家族で宿泊旅行に行っている人もいるようだ。	以前は重度の人が多かったが、1年半前から自立度の高い元気な人が増えてきたとの事。今日のリビングの活気や午後の外出の様子を見ても、今だからこそ出来る事(外出・外食・買い物等)をしっかりと楽しんで欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金は所持していないが、個々の必要な買い物時に事業所の立替により、希望のものを購入してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の支援をし、手紙などは何時でもお渡ししている。ただ現在手紙を書ける人がおらず、出す支援はしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には表札を設置しています。ホールには季節ごとに壁画を飾ったり、イベント時の写真を貼って思い出づくりにも努力している。	現在は自立度の高い元気な人が多く、皆さん演歌大好きで、リビングのテレビからはユーチューブの歌番組がずっと流れている。一緒に口ずさむ人、隣同士で話し合っている人等、リビングは賑やかだ。外にはテラスがあり、ティータイムや日光浴も楽しめる。殆どの人が日中はここで好きな事をして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは殆どの方は決まった席が落ち着くようである。少数の方はその日の心身の状況によって席を変えてその日の雰囲気でも過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していたタンスや、ご家族の写真、テレビ、仏壇、位牌などを持ち込み、その人らしい居室となっている。	食事が済んだらすぐ自室に帰る人にとっては、自分の一番寛げる場所でありプライベート空間になっている。入所以来ずっと日記を書いている人、いつでも帰る準備をして荷物をまとめている人、手芸作品を飾っている人等、皆個性的でその人の生活への思いが伝わってくる。清潔で居心地の良い環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には表札を設置し、見てわかる工夫をしている。環境整備に努め、障害物の除去など安全面の工夫をしている。		